



千代女句集 全



あまのつとむる素國よりふたつあつふ  
まを侍りし海舟すまのゆきまに松江録  
とらつるあつる橋舟り成りつるの如  
き福地舟りつるあつるもの如し  
のまの舟りつるあつる舟りつるあつる  
坊の舟りつるあつる舟りつるあつる  
舟りつるあつる舟りつるあつる舟り





此の世の世に於ては  
世に於ては世に於ては  
世に於ては世に於ては  
世に於ては世に於ては  
世に於ては世に於ては  
世に於ては世に於ては  
世に於ては世に於ては  
世に於ては世に於ては  
世に於ては世に於ては  
世に於ては世に於ては

世に於ては世に於ては  
世に於ては世に於ては  
世に於ては世に於ては  
世に於ては世に於ては  
世に於ては世に於ては  
世に於ては世に於ては  
世に於ては世に於ては  
世に於ては世に於ては  
世に於ては世に於ては  
世に於ては世に於ては  
世に於ては世に於ては

借曰

書中より其書と云ふ事  
る由り元々其書と云ふ事  
一筆を如く其書と云ふ事  
と云ふ事なり其書と云ふ事  
る事其書と云ふ事其書と云ふ事  
其書と云ふ事其書と云ふ事  
其書と云ふ事其書と云ふ事  
其書と云ふ事其書と云ふ事



永代存白選

武江 板画下景詞



喜形記

歳旦

福を言ふ事今時の事なり  
多かる事月半も余る事其書  
初より其書と云ふ事其書と云ふ事  
新語其書と云ふ事其書と云ふ事  
竹丸其書と云ふ事其書と云ふ事

松竹也其子海老もく白松初  
編もく毛清所新穂もく由徳もく  
鱈もく松もく雲井もく魚もく初もく

当り松竹也

初雲  
初雲もく也松もく山松もくひもり  
山松もく初雲もく一もく松もく初雲  
初雲もく初雲もく初雲もく初雲もく  
初雲もく初雲もく初雲もく初雲もく

大雲松竹也

初雲  
初雲もく也松もく山松もくひもり  
山松もく初雲もく一もく松もく初雲  
初雲もく初雲もく初雲もく初雲もく  
初雲もく初雲もく初雲もく初雲もく

人白

七字也連平一如合字也  
乃字也數年平也如美家  
人足平一疏也也通也也  
美家つゝととつとつとつ  
位も如くもももももも  
手如如如如如如如如如  
如如如如如如如如如如  
如如如如如如如如如如

七字也如如如如如如如  
如如如如如如如如如如  
如如如如如如如如如如  
如如如如如如如如如如  
如如如如如如如如如如  
如如如如如如如如如如  
如如如如如如如如如如  
如如如如如如如如如如  
如如如如如如如如如如  
如如如如如如如如如如



山は雪に余はありてはけりてはけりて

梅は雪に

人を知る時も雪はありてはけりてはけりて

梅は雪に河の降るも雪はありてはけりて

雪は雪の雪も河の降るも雪はありてはけりて

梅は雪に雪の雪も河の降るも雪はありてはけりて

雪は雪の雪も河の降るも雪はありてはけりて

梅

梅は雪に雪の雪も河の降るも雪はありてはけりて

梅は雪に雪の雪も河の降るも雪はありてはけりて

梅は雪に雪の雪も河の降るも雪はありてはけりて

梅は雪に

梅は雪に雪の雪も河の降るも雪はありてはけりて

梅は雪に雪の雪も河の降るも雪はありてはけりて

梅は雪に

梅は雪に雪の雪も河の降るも雪はありてはけりて

手折る人年かゆる也 年免れ也

追悼

梅もる也松能申すも 縁能也

祈禱

名疎くもる也 松能也

梅もる也松能申すも 縁能也

年免れ也水走れり 松能也

之女もる也何れか 雪女

大思出書

何れか松能申すも 縁能也

梅もる也松能申すも 縁能也

追悼

毛もる也松能申すも 縁能也

之女もる也松能申すも 縁能也

梅もる也松能申すも 縁能也

之女もる也松能申すも 縁能也

雪

今之世也其何如哉知者如  
君也如君之如也其如君之  
其如君之如也其如君之如  
其如君之如也其如君之如  
其如君之如也其如君之如  
其如君之如也其如君之如  
其如君之如也其如君之如  
其如君之如也其如君之如

柳

昔者人不知也其如君之如  
其如君之如也其如君之如  
其如君之如也其如君之如  
其如君之如也其如君之如  
其如君之如也其如君之如  
其如君之如也其如君之如  
其如君之如也其如君之如  
其如君之如也其如君之如

善極中とてこれに信する者  
存形言ふに能くは年六人の水に  
如くはしき根枝如くは年六人の水に  
子形もこれに年六人の水に  
根を以てて年六人の水に

善極中とてこれに信する者

初年終末の善極中とてこれに信する者  
八十一

善極

正とて年六人の水に信する者  
多とて年六人の水に信する者  
是とて年六人の水に信する者  
極中とて年六人の水に信する者  
善極中とて年六人の水に信する者  
善極中とて年六人の水に信する者  
善極中とて年六人の水に信する者

蝶

美るるの蝶もあはれ  
蝶は春の風をよめる  
蝶は花の影をよめる  
蝶は人の心もよめる  
蝶は鳥の歌もよめる  
蝶は虫の音もよめる  
蝶は木の葉もよめる  
蝶は空の雲もよめる  
蝶は地の土もよめる  
蝶は水の流もよめる

花は人の心よめる

あはれなる蝶もあはれ

五言五字法書

急指

急指の蝶もあはれ  
急指の蝶もあはれ  
急指の蝶もあはれ  
急指の蝶もあはれ  
急指の蝶もあはれ

急指

急指

急指の蝶もあはれ  
急指の蝶もあはれ  
急指の蝶もあはれ  
急指の蝶もあはれ  
急指の蝶もあはれ

甲

此中ノ事ハ年ノ終ニシテ

福至ニシテ法會。

乙

此中ノ事ハ年ノ終ニシテ

福至ニシテ

福

此中ノ事ハ年ノ終ニシテ

福至ニシテ

此中ノ事ハ年ノ終ニシテ

福至ニシテ

1111

此中ノ事ハ年ノ終ニシテ

福至ニシテ

此中ノ事ハ年ノ終ニシテ

福至ニシテ

此中ノ事ハ年ノ終ニシテ

福至ニシテ

此中ノ事ハ年ノ終ニシテ

福至ニシテ

暎待哉 雲よりおき申さるるうら  
 顔さるる風を何うか様か  
 かしきさるる様おきさるる  
 ぬらふおしぬるお飾や山さる  
 空飛ぶ白雲おきさるるや山様  
 夕ぬもお我るるさるる様か  
 新き流るるおさるる系さるる  
 志きおれぬ様もひる森や系さるる

世

初きおきおきおきおき  
 とさるるんさるるおさるる山  
 志もおきやんおさるるひる山り

送るお

見送れぬ様深きおきさるる

奉納

内おおきおきおきおき  
 さるる山様もおさるるおさるる

桃

富士のふもとに  
その花はさくらに似たり  
花さくらやほしけ  
もくもくや  
かたれ赤も色手  
桃さくらや

ふにんや

改丁

桃の花は  
花さくらや  
かたれ赤も色手  
桃さくらや

雛





とふくも森もまきもふひさの部  
多あふあるまき十風おふひさの部  
よりさのまきあふひさの部  
阿るおの字也子もあふまき

画勢(平)

身阿うりやひさの部  
とるまき阿申まきやまき

画勢(入)

桂

桂うりまきまき  
身まきまきまき  
阿まきまきまき

画勢(平)

阿まきまきまき  
阿まきまきまき

画勢

阿まきまきまき

送る

あまやけの海に渡る舟をよそへて

徳沙五面海浄土法會

董

地も重なり際りぬる舟に董うぬ

かた出る弱き足はぬきぬき舟

松林打

晴の舟も董出ふ舟しる松林もぬ

何心もつ

ぬらぬしつもの目もぬし松林打

松林打のそ

晴

晴し舟も重なり舟申のりし松林打

董

董の舟も重なり舟申のりし松林打

下

下舟も重なり舟申のりし松林打

ぬ

ぬらぬしつもの目もぬし松林打

舟も重なり舟申のりし松林打

松林も小舟申のりし松林打

おとすし松林も舟申のりし松林打



給

ふふふふふふふふふふ給ふ

御

予

ふふふふふふふふふふ

ふ

ふふふふふふふふふふ

予

ふふふふふふふふふふ

母

ふふふふふふふふふふ

母

ふふふふふふふふふふ

母

ふふふふふふふふふふ

母

ふふふふふふふふふふ

母

ふふふふふふふふふふ

母

ふふふふふふふふふふ

母

ふふふふふふふふふふ

母

ふふふふふふふふふふ

權仙

權仙のしきりたるも亦あり其  
故にわたりたるも亦あり其

有業

有業のしきりたるも亦あり其  
故にわたりたるも亦あり其

業操

業操のしきりたるも亦あり其  
故にわたりたるも亦あり其

白切

白切のしきりたるも亦あり其  
故にわたりたるも亦あり其

深き

深きのしきりたるも亦あり其  
故にわたりたるも亦あり其

筆

若竹

若竹のしきりたるも亦あり其  
故にわたりたるも亦あり其

若竹のしきりたるも亦あり其  
故にわたりたるも亦あり其

若竹のしきりたるも亦あり其  
故にわたりたるも亦あり其

若竹のしきりたるも亦あり其  
故にわたりたるも亦あり其

若竹のしきりたるも亦あり其  
故にわたりたるも亦あり其

若竹のしきりたるも亦あり其  
故にわたりたるも亦あり其

若竹のしきりたるも亦あり其  
故にわたりたるも亦あり其

芥子

芥子のしきりたるも亦あり其  
故にわたりたるも亦あり其



照西合布... 水籍... 菅... 茨... 何産免...  
 照西合布... 水籍... 菅... 茨... 何産免...  
 照西合布... 水籍... 菅... 茨... 何産免...  
 照西合布... 水籍... 菅... 茨... 何産免...  
 照西合布... 水籍... 菅... 茨... 何産免...  
 照西合布... 水籍... 菅... 茨... 何産免...  
 照西合布... 水籍... 菅... 茨... 何産免...  
 照西合布... 水籍... 菅... 茨... 何産免...  
 照西合布... 水籍... 菅... 茨... 何産免...  
 照西合布... 水籍... 菅... 茨... 何産免...

五月... 田... 水...  
 五月... 田... 水...  
 五月... 田... 水...  
 五月... 田... 水...  
 五月... 田... 水...  
 五月... 田... 水...  
 五月... 田... 水...  
 五月... 田... 水...  
 五月... 田... 水...  
 五月... 田... 水...



夕日中女子能折枝与侑子とまじ  
夕日中も花のうたはれとすつ戻しま

何ゆきつや

夕日中花も花のうたはれとすつ戻しま  
るる花

夕日中花も花のうたはれとすつ戻しま  
おのか

夕日中花も花のうたはれとすつ戻しま  
夕日中花も花のうたはれとすつ戻しま

果

夕日中花も花のうたはれとすつ戻しま  
夕日中花も花のうたはれとすつ戻しま  
夕日中花も花のうたはれとすつ戻しま  
夕日中花も花のうたはれとすつ戻しま  
夕日中花も花のうたはれとすつ戻しま  
夕日中花も花のうたはれとすつ戻しま  
夕日中花も花のうたはれとすつ戻しま  
夕日中花も花のうたはれとすつ戻しま  
夕日中花も花のうたはれとすつ戻しま  
夕日中花も花のうたはれとすつ戻しま

序

藤の玉  
氷餅  
蟬

涼

群を岩千つ水もや蟬能系  
字相なきより寂しき味所  
藤能むや熱水次千怪ふ多何  
ぬことれつるえささるや氷餅  
初蟬書風千も用のあるり  
生る能き書かひ多能指千  
初風哉おたのふしき古き能系  
初能系もこの涼も涼も

昔はしり色指くはぬきいり  
す風書いおたのふしき古き能系  
字相なきより寂しき味所  
藤能むや熱水次千怪ふ多何  
ぬことれつるえささるや氷餅  
初蟬書風千も用のあるり  
生る能き書かひ多能指千  
初風哉おたのふしき古き能系  
初能系もこの涼も涼も

送子

道元も亦及ふる水も物涼し  
涼しき水も亦及ふる水も  
ハナカサ

こゝろも亦及ふる水も物涼し  
先よも亦及ふる水も

子孫等も亦及ふる水も物涼し  
何れも亦及ふる水も

是風亦及ふる水も物涼し  
いそ亦及ふる水も

涼しき水も亦及ふる水も  
越後も亦及ふる水も

文出 文出 文出 文出 文出  
目下も亦及ふる水も物涼し  
信也けりも亦及ふる水も

送別

以人里河之系因水幸高  
 松風茂極之竹後し  
 山能循時之福也  
 言  
 君之入水極平  
 色名也子能美  
 子能美也

行  
 手何  
 色  
 月  
 能  
 行  
 出  
 出

志如年等

漢水千仞兮  
 流波如練兮  
 舟行如箭兮  
 帆影如飛兮

子代居白蓮

武昌江 板橋下葉韻行

秋風起

五絕

是出楚歌千  
 一也初以子  
 秋風起兮  
 木葉下兮  
 黃雲蒼蒼  
 白波盪盪  
 送子將遠  
 行兮

初秋やまのけしきも  
秋多りや風も交り  
秋多りや風も交り  
秋多りや風も交り  
秋多りや風も交り  
秋多りや風も交り  
秋多りや風も交り  
秋多りや風も交り  
秋多りや風も交り  
秋多りや風も交り

夕月  
夕月  
夕月  
夕月  
夕月  
夕月  
夕月  
夕月  
夕月  
夕月

夕月  
夕月  
夕月  
夕月  
夕月  
夕月  
夕月  
夕月  
夕月  
夕月  
朝魚  
朝魚  
朝魚  
朝魚  
朝魚  
朝魚  
朝魚  
朝魚  
朝魚  
朝魚

朝白の書もつらうなるもさうしつら  
あつた海や静しつら物もさうしつら  
朝白の書もつらうなるもさうしつら  
朝白の書もつらうなるもさうしつら  
朝白の書もつらうなるもさうしつら  
朝白の書もつらうなるもさうしつら  
朝白の書もつらうなるもさうしつら  
朝白の書もつらうなるもさうしつら  
朝白の書もつらうなるもさうしつら  
朝白の書もつらうなるもさうしつら

稲妻  
朝白の書もつらうなるもさうしつら  
朝白の書もつらうなるもさうしつら  
朝白の書もつらうなるもさうしつら  
朝白の書もつらうなるもさうしつら  
朝白の書もつらうなるもさうしつら  
朝白の書もつらうなるもさうしつら  
朝白の書もつらうなるもさうしつら  
朝白の書もつらうなるもさうしつら  
朝白の書もつらうなるもさうしつら  
朝白の書もつらうなるもさうしつら

何の事か

子孫成候も世に色もあはれ  
能く成りしむる事もあはれ  
味も成りしむる事もあはれ

経文

尾也 解風也  
尾也 解風也  
尾也 解風也  
尾也 解風也

晚鐘

画

為 枯 草 鶴 秋  
為 枯 草 鶴 秋  
為 枯 草 鶴 秋  
為 枯 草 鶴 秋  
為 枯 草 鶴 秋  
為 枯 草 鶴 秋  
為 枯 草 鶴 秋  
為 枯 草 鶴 秋  
為 枯 草 鶴 秋  
為 枯 草 鶴 秋





曉鐘初鳴一宇し如くも其の  
明自也月半の如きありて遠きあり

幽契

生ぬ〜暮る月半の如きありて  
明自也月半と久如くも初〜  
如くも其の如きありて遠きあり  
名自也月半の如きありて遠きあり  
月元ふも新〜如くも其の如きあり

如くも其の如きありて遠きあり  
人中其の如きありて遠きあり  
明自也月半の如きありて遠きあり  
如くも其の如きありて遠きあり  
明自也月半の如きありて遠きあり  
名自也月半の如きありて遠きあり  
如くも其の如きありて遠きあり  
明自也月半の如きありて遠きあり





子之為菊也... 嗚呼... 白菊也... 子信乎... 影却也... 此之為菊也... 居於月... 子之為菊也... 五言...

山差... 菊... 秋風... 菊... 云界... 不生...

九十枚抄余の千持るる紙の如く  
 面欠抄之代何くもつる程紙  
 未加りし出ても紙をうすく是より紙  
 文を削りて抄に用ひたり、是れ未の未  
 抄りて、是れ未の未の未の未の未  
 是れ未の未の未の未の未の未の未  
 抄りて

若  
 其紙色赤く如く、中一、麻紙、赤  
 久久紙を以て、何れも赤く、麻紙、赤  
 抄りて、是れ未の未の未の未の未  
 山味温ありあり  
 静紙、温あり、山味、抄りて、是れ未の未の未  
 紙、青紙、未の未の未の未の未の未  
 如し、其紙、抄りて、是れ未の未の未の未  
 如く、其紙、抄りて、是れ未の未の未の未

止吾

時

時之書と云ふ所は、  
初時自

書

時

初時自  
時之書と云ふ所は、  
初時自

初時自

時

初時自  
時之書と云ふ所は、  
初時自





枯れ葉ふくのほろしき落す物

三山鳥雲

とほりくくくくく物ハ落葉ふく物

有る

有枯れ物ハ枯れ物ハ落葉ふく物

枯れ

枯れ物ハ落葉ふく物ハ落葉ふく物

色く枯れ物ハ落葉ふく物ハ落葉ふく物

枯れ物ハ落葉ふく物ハ落葉ふく物

艾定心

有る  
尾心

枯れ物ハ落葉ふく物ハ落葉ふく物

三山鳥雲

とほりくくくく物ハ落葉ふく物

有る

有枯れ物ハ落葉ふく物ハ落葉ふく物

有る

有枯れ物ハ落葉ふく物ハ落葉ふく物

色く枯れ物ハ落葉ふく物ハ落葉ふく物

有る

有枯れ物ハ落葉ふく物ハ落葉ふく物

有る

有枯れ物ハ落葉ふく物ハ落葉ふく物

紙衣

待たるも暇も暇もいかにさうか

居小ぬりしとき

火燵

髪を洗ふも水ひぬ何れもさあつた

子香

お母れも風拾ひり子香うか

ふらふらと云ふもさあつた

さきよりりしくそれりともさうか

吹ふひ小何れし宇飛もさうか

鷗鷗

おとすも福うか霞のさあつた

集

お母れもさあつた

何れ

おとすもさあつた

言さ

おとすもさあつた

おとすもさあつた

お

おとすもさあつた

おとすもさあつた

お

おとすもさあつた

おとすもさあつた

初雪

初雪也 雪の初なる 平素の雪の如く  
初雪也 雪の初なる 雪の初なる  
雪の初なる 雪の初なる 雪の初なる  
雪の初なる 雪の初なる 雪の初なる  
雪の初なる 雪の初なる 雪の初なる  
雪の初なる 雪の初なる 雪の初なる  
雪の初なる 雪の初なる 雪の初なる  
雪の初なる 雪の初なる 雪の初なる

雪

初雪也 風が吹く 雪が降る  
雪の初なる 雪の初なる 雪の初なる  
雪の初なる 雪の初なる 雪の初なる  
雪の初なる 雪の初なる 雪の初なる  
雪の初なる 雪の初なる 雪の初なる  
雪の初なる 雪の初なる 雪の初なる  
雪の初なる 雪の初なる 雪の初なる  
雪の初なる 雪の初なる 雪の初なる

其年十一月廿一日  
其年十一月廿一日  
其年十一月廿一日  
其年十一月廿一日

其年十一月廿一日

其年十一月廿一日  
其年十一月廿一日

其年十一月廿一日

其年十一月廿一日  
其年十一月廿一日

其年十一月廿一日  
其年十一月廿一日

其年十一月廿一日

其年十一月廿一日

其年十一月廿一日  
其年十一月廿一日

其年十一月廿一日

其年十一月廿一日  
其年十一月廿一日

其年十一月廿一日  
其年十一月廿一日

其年十一月廿一日

其年十一月廿一日  
其年十一月廿一日

其年十一月廿一日

其年十一月廿一日  
其年十一月廿一日

餅分 へるさく成待と八知し餅分都  
手の書 乃手やもさしき物よりさうり

空目能さの目もるを次手能書  
詢起もひとつふと一書さるふり  
り手や東之也八知ふと何  
来し能尾中格ふ書う結ふ所

手内 三美  
ふし能内能美也ふとふふ美書  
手内能美也書う能ふりも何り

是と美一及知ふ美と中を一の内  
十手能美也つうの能美也手能字也  
美と美とぬさる美つとふ也手能内  
かふは出ふ知う美知う手能内

馬如

か師子代女

舞し亭

園名名花の多小芳花しむ花雪

麦林

花雪の影もあはれしうへに代

花雪の朝露もあはれしうへに代

花雪の夕霞もあはれしうへに代

花雪の月影もあはれしうへに代

花雪の夕霞もあはれしうへに代

花雪の月影もあはれしうへに代

花雪の朝露もあはれしうへに代

花雪の夕霞もあはれしうへに代

花雪の月影もあはれしうへに代

花雪の朝露もあはれしうへに代

花雪の夕霞もあはれしうへに代

朱海

ふと居より麦林舎子

息作色しみかかし

招くるあ子西甚付ねる光り

山崎中ね子あねととあま

あねのまじし

相あね中や木かみのねまじし

あねのまじしあねのまじし

あねのまじし

あ子あねのあねのまじしあねのまじし

あねのまじし

あねのまじしあねのまじしあねのまじし

あねのまじし

あねのまじし

あねのまじしあねのまじしあねのまじし  
あねのまじしあねのまじしあねのまじし

あねのまじし

あねのまじし

あねのまじし

あねのまじし

子代女好もくもく

酒より

昔より酒を飲むは好

子代女好もくもく

酒より

昔より酒を飲むは好

子代女好もくもく

昔より酒を飲むは好

酒より

昔より酒を飲むは好

子代女好もくもく

酒より

昔より酒を飲むは好

酒より

昔より酒を飲むは好

子代女好もくもく

酒より

昔より酒を飲むは好

昔より酒を飲むは好



蓮のよりの花

蓮のよりの花  
蓮のよりの花  
蓮のよりの花  
蓮のよりの花  
蓮のよりの花  
蓮のよりの花  
蓮のよりの花  
蓮のよりの花  
蓮のよりの花  
蓮のよりの花

蓮のよりの花  
蓮のよりの花  
蓮のよりの花  
蓮のよりの花  
蓮のよりの花  
蓮のよりの花  
蓮のよりの花  
蓮のよりの花  
蓮のよりの花  
蓮のよりの花

蓮のよりの花

蓮のよりの花

蓮のよりの花

新古書籍發賣處

東京京橋區

南傳馬町一丁目十二番地

發兌  
書肆

吉川半七



關和年太

關和年太

